

### 第4回新潟市行政改革点検・評価委員会議事概要

日 時	平成 24 年 10 月 17 日 午後 1 時 30 分～午後 3 時
会 場	市役所本館 6 階議会第一委員会室
出席委員	田巻清文委員長，大橋誠五委員，佐野由香利委員，鷺見英司委員，渡邊信子委員 (委員長を除く 50 音順)
次 第	1 開会 2 総務部長あいさつ 3 議題 (1) 提言 (案) について 4 副市長あいさつ 5 閉会
議事概要	<p>&lt;開会&gt;</p> <p>(能登谷総務部長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本日、第 4 回で最後の評価委員会ということでお集まりいただいた。</li> <li>・過去 3 回の委員会において有益なご意見をたくさんいただき、その意見を集約する形で、この委員会で市に対する提言書をまとめていただくことになる。</li> <li>・提出いただく提言書が次の行政改革プランの土台を作るものとなるので、今回も過去 3 回と同様に熱心なご検討・ご議論をお願いし、開会の挨拶とさせていただきます。</li> </ul> <p>(本間行政経営課長補佐)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料の確認等 (省略)</li> </ul> <p>(田巻委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本日の議題は議題 (1) 提言 (案) について議論していく。</li> <li>・第 3 回委員会では提言の骨格・素案についてご議論いただいた。</li> <li>・委員の皆様からいただいたご意見を踏まえ、事務局から提言 (案) として整理いただいたので、説明をお願いします。</li> </ul> <p>&lt; (1) 提言 (案) について &gt;</p> <p>(佐野行政経営課長)</p> <p>資料について説明 (省略)</p> <p><b>【新潟市行政改革プラン 2010 の点検評価について】</b></p> <p>(田巻委員長)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明していただいた提言 (案) の資料のうち、第 3 回で議論したところにあたるのは資料の 4 ページ「3 新潟市行政改革プラン 2010 の点検評価について」以降のところである。</li> <li>・これからの議論については、資料 4 ページからの「3 新潟市行政改革プラン 2010 の点検評価について」と、資料 6 ページからの「4 新潟市の行政運営における課題について」「5 今後の方向性」、それから資料 10 ページからの「6 次の行政改革プランの策</li> </ul>

定にあたって」と3つのブロックに分けて議論いただきたい。

・まず、4ページ「3 新潟市行政改革プラン 2010 の点検評価について」、(1) から (3) までであるが、これについての委員の皆さんのご認識、意見、記載すべき事項について伺いたい。

・大橋委員、いかがか。

(大橋委員)

・前回の委員会での意見等が、上手に書き込まれている印象を受けた。

・前回、住民と最前線で接触されている職員からも意見があったが、一例として生活保護を受給される方が急増しており、そういった急激な社会の変化、これをもう少し今までと違うスピードアップした感覚で捉えるべき。

・その部分が(1) これまでの行政改革全般の進捗の③で、私が強く言いたかった点である。

・(2) の進捗で言うと④になるが、進捗が遅れているものがあるというものを、プラスだけでなくマイナスの部分も出していくべきだと話したが、ここも記載がされ評価したい。

・さらに⑥の、さらに取組みを強化すべきだと言う表現も適切であると思う。

・(3) の三つの重点改革項目のうち、政令指定都市機能の充実については、政令指定都市になってから5年を経た段階でそのメリット、デメリットは何だったのかを真正面から考えていく必要がある。

・今まで、「減らせ」という話はよくしたが、それは国・県からいろいろな事務の移譲があり、かなり多数になっていることを知らないわけではない。

・やらなければならない仕事が増えているのに、単純に減らせとうことを申しているのではなく、市が行っている事業をもっと縮小することによって減らせるのではないかということ。

・その手法として、後で出る「新しい公共」、NPO、指定管理や民間委託というものがあるのではないか。

・もう一つは、いろいろな意見を多岐に渡って発言してきたが、政治判断というものがあって行政判断がある、ここをわきまえないと、我々は外部の点検・評価する委員会のため、そこで線を引かないと議論が混迷する。

・あくまでも市民から選ばれた首長と議会との政治判断がどうなのかということころは、この委員会であまり具体的に突っ込んでいくと、例えば記載のある「大きな区役所、小さな市役所」と言うのは恐らく首長判断、政治判断があって、議会がどう思っているかという、そういうところでの議論にお任せした方がよいと思う。

・我々は行政運営という政治判断があって行われている、行政経営というべきかもしれないが、その遂行がどうなっているのか、ここにある程度整理して議論を集中していかないとおかしなものになってしまうが、そういう意味では、この点検評価についての表現は良い表現・書き方と評価している。

(田巻委員長)

・佐野委員いかがか。

(佐野委員)

・内容については記載のとおりでよろしい。

(田巻委員長)

・では、鷲見委員いかがか。

(鷺見委員)

- ・ 1点だけお話させていただきたい。
- ・ 前回②のところをコメントさせていただいたが、私の言い方がよくなかったのかもしれないが、「...他都市との比較だけでなく、行革プランの何が評価されているのか」ということを確認していただくことが大事で、そのための分析手法等も知っておいた方が良さだろうということ。
- ・ これまでの取組みのどういう点が評価されて高い外部評価となっているのかということを理解する。
- ・ そうすることによって、さらに高めていくためにはどこの部分を補ってあげればいいのかというところが見えてくると思うので、行革プランの何が高く評価されているのかというところを書いていただくと良いのではないかと。

(田巻委員長)

- ・ それでは、渡邊委員。

(渡邊委員)

- ・ 書きぶりは、大分、分かりやすくなった。
- ・ 5 ページの④についてだが、ホームページ等でいろいろな情報がアップされていると思うが、それがどこにアップされているのか市民からはなかなか分かりにくい。
- ・ 「取組工程表の 54 の改革実施項目のうち、42 項目は目標を達成する見通しとなっているが...」とあるが、これを全て了解している人は分かるが、これが一体何なのかと読んだ市民は思ってしまう。
- ・ これから市民を巻き込んでいかに得ない市政というものがあるのであれば、補足説明や「ここを確認してください。」等を入れて、市民により分かりやすい形をとっていただきたいと思う。
- ・ また、「...一方で取組みの進捗が遅れているものがある」となっているが、できれば「とても遅れているもの〇〇と、取組みの進捗が遅れているものがある」と、少し具体例を1つ2つ出していただくと、54 項目のうち 42 項目と何が遅れているのかが、もう少し分かりやすくなると思う。

(田巻委員長)

- ・ 前回の議論については大体が盛り込まれており、書きぶりもいいのではという委員の意見が多かった。
- ・ いくつか補足の部分だけ確認させていただく。
- ・ まず、鷺見委員の、(1) の②で、外部評価について、この部分で行革プランの何が評価されているのかという表現の仕方、今後にもそれを活かしていただきたいという意味合いを付け加えていただきたい。
- ・ 次に、渡邊委員の、(2) の④で、取組工程表の何項目という部分、遅れている部分がどうなのかと、具体的なものがあると分かりやすいため、具体例を載せてはどうか、というところを、できれば補足いただきたい。
- ・ 大橋委員から、難しい問題ではあると思うが、政治判断と行政判断について、私たち外部委員はあくまで運営についてのチェックということでやらざるを得ない。
- ・ 一つ一つの施策が良いかどうかを議論すると、これは違うのだから、言えるのは議論を通して次のプランに活かしていただくということ、今のところこれは課題だと思うので、そこをこのプラン 2010 の評価というよりは、別のところで表現していただければと思うが、大橋委員それでよいか。

(大橋委員)

・自戒を込めてということになるが、点検評価委員会のため、自ずと委員長の言う通りになるはずなのに、議論・プロセスの中で私のみならずいろんな方向に話をしてしまったということを申し上げた。

(田巻委員長)

・それでは、以上でこの部分はよろしいか。

(佐野行政経営課長)

・渡邊委員からいただいた意見についてお答えしたい。  
・取組項目のうち遅れているものについて、1つ2つ出しても全体像は見えにくいと思うので、委員会でも出している資料を、提言書の最後に参考として付ける形にした方が良くと思うので、そのように対応したい。

(田巻委員長)

・渡邊委員それでよろしいか。

(渡邊委員)

・その対応でよい。

(田巻委員長)

・最初に進捗状況について、思ったよりも進んでいるのか、いないのかというところがあったと思うが、この書き方は前回よりも変わってきたことは間違いない。  
・しかし、もう少しスピード感を出すように、今の計画は進捗しているところもあるが、もっとやらなければいけないことがたくさんあるということをもう少し強く評価するのが良いと私は思うのだが、委員の皆さんいかがか。  
・一同了承のようなので、もう少しトーンを強めていただく対応をしていただきたい。  
・それでは次の議論に進みたい。

#### 【新潟市の行政運営における課題について】【今後の方向性について】

(田巻委員長)

・資料6ページの「4 新潟市の行政運営における課題について」と、「5 今後の方向性について」、ここでは、財務状況、組織・職員の状況について、行政運営の課題と今後の方向性についてということで整理してもらった。  
・委員の皆様、ご認識又は意見や追加すべきことがあったら、追加したい。  
・まず、鷺見委員いかがか。

(鷺見委員)

・まず4番だが、これまでの議論を反映して書いていただいているということで良いかと思う。  
・しかし、先程佐野課長からお話があったように、はじめに拝見していて、7ページから8ページの表現がやや分かりにくいところがあったので、その辺りを先程のような形で、市役所と区役所の役割を明確化した上で、二重行政というわけではないが、コスト増の要因にならないような、そういうことを留意してくださいという書き方がよろしいと思う。

(田巻委員長)

- ・渡邊委員、いかがか。

(渡邊委員)

- ・驚見委員と同じで、「大きな区役所、小さな市役所」というところの書き方は、もう少し具体的に書き直していただきたい。
- ・先程の4ページ、5ページのところで、田巻委員長もおっしゃったが、「概ね計画どおり」「概ね達成の見通し」とあるが、読んでいて違和感がある。
- ・具体的に何%ぐらい計画通りに進捗・推進されている、等の書き方はできないのか。
- ・どこでも「概ね」と。「概ね」とはどの程度なのか、という印象が拭えない。
- ・数値化できるのであれば、していただきたい。

(田巻委員長)

- ・その点だけ、先に回答を。

(佐野行政経営課長)

- ・削減の歳出の「概ね」は、今年度も含めて達成できるだろうという、あくまで見込みという意味で、「概ね」という言葉を付けたもの。
- ・①の「概ね」などは、人員削減目標について、この委員会でもご報告したように、「達成が難しい」状況になりつつあるなど、一部達成が難しいものがあるため、全体の進捗について「概ね」計画どおりと表現させていただいた。
- ・その意味では、見通しが確実ということであれば、5ページの「概ね」を削除しても良いのかもしれない。削除できるかどうかは検討したい。
- ・①のところは、表現を工夫したい。

(渡邊委員)

- ・(1)の①に、全般の進捗で「概ね計画どおりに推進」というのは良いかと思うが、(2)の進捗の確認のところは、具体化できるのであれば、もう少し分かりやすく具体的に書いていただいた方が良い。この2ページに「概ね」という言葉が何回も出てくるので、その辺を検討してほしい。

(田巻委員長)

- ・はい、そこは検討していただく。
- ・では、戻って、6ページのご意見を伺いたい。大橋委員どうぞ。

(大橋委員)

- ・行政用語みたいな、一般市民目線からすると、分かりにくい表現。
- ・「機会の損失」や「選択と集中」がよく出てくるが、選んで良いと思うものややっていく、読んで字のとおりであると思うが、これをもっとかみ砕いて言うと、個性を活かしたというか、新潟市らしいというか、そういうことではないかと私なりに理解している。
- ・こういう委員会のため、そういう表現が良いかどうか分からないが、ありとあらゆることをやるのが市民目線にないと、「紙があってたくさん書いてある」で終わってしまうので、そこは思い切って、先程の「機会損失」の話等、できるだけ置き換えてみたらどうか。
- ・言葉の定義が出てきたが、私が前に言ったように、「新しい公共」や「市民との協働」、大学の授業のような錯覚に陥るほどのそういう表現が良いかどうか、原点的な、そこ

を少し意識して、もし書き直すのであれば、直してほしい。

・重複した発言になるが、7 ページの「大きな区役所、小さな市役所」は、私ずっと引っかかっている、前にも発言しているが、これをやると、行政コストが膨大になるというリスクをはらんでいるということは、どこかで警鐘を鳴らしておかないと。

・これは違う、市民が選んだ市長が言っている、政治判断だ、ということになると、政治があって行政運営があるので、これでよしとしなければならないかと。

・「という理念で進めている」とあるが、理念という表現も、再考してほしい。

・職員については、行政職は皆さん勉強して頑張っていると思うが、委員会の中で、事務の移譲、政令市になったことによって、事務がどれくらい増えたのか、ということが、ほとんど議論されてこなかったような記憶がある。

・国も含めて事務がおりてきているのに、行政職だけ減らせよという話は相反する。

・そこで、「選択と集中」ということで、職員にも同じことが言えて、優先的にやらなければならないことは何かという風に思考していく、そういう論理でないかという気がする。

・このところで、政治判断たる「大きな区役所、小さな市役所」というものをどう書き込むかは結構難しいのではないかと。

・議会での話なら分かる。議員がこういう方針でやっているようだがどうか、という議論なら良いと思うが、ここはどう書き込めば良いのか。逆に質問になって申し訳ないが、疑問に思っている。

(田巻委員長)

・それは後での回答にして、次は佐野委員どうぞ。

(佐野委員)

・6 ページの 2 番目のポチのワークアンドライフバランスは、アンドは付けるのか。付けないのではないかとと思うが、字句を調べていただきたい。

・今程の 7 ページの (2) ①の 2 つ目のポチの「大きな区役所、小さな市役所」のところだが、行政コストや本庁と区役所とのコミュニケーションが取りにくいとか、具体的な例を挙げて、今後も検討していった方がよいのではないかという書きぶりにしたらいかがかという提案。

(田巻委員長)

・今いくつか質問出たが、いかがか。

(佐野行政経営課長)

・7 ページの一番下の「大きな区役所、小さな市役所」のところだが、理念という表現が良いかどうかという議論はあるかもしれないが、今までは理念という表現で使ってきているので、できれば、そこは「理念」という言葉で置かせていただきたい。「今後もこれで良いのか分析評価」という書きぶりは、先程大橋委員が話されたように、これはある意味理念でありながら、1 つの方針だと思うので、それを前提としつつ、区役所と市役所の役割と責任の範囲は、大きな理念の中できちんと整理していく必要があるかと思う。

・これまで、こういう取組をしてきたが、今後この理念の中で進めていくと、後で出てくるような行政コストの問題もあるので、2 行目のところは、「区役所と市役所の役割と責任を再整理していく」という形で書き直した方が良く、先程からいただいているご議論で感じた。

・皆さんにご了解いただければ、そうしたい。

・本庁と区役所のコミュニケーションについては、ここに記載するのが良いかどうか、場合によっては、今後留意すべきところに、加えられるかどうか検討したい。

(田巻委員長)

- ・まず、語句、言葉だが、先程 PPP とか話があったが、ここに書いてもらったが、まだ分かりにくい。提言の中にそのまま入れると、なかなか説明しにくいと思う。
- ・この、用語の定義のところ、もう少しかみ砕いて説明してもらった方が良い。
- ・提言の本文に用語の定義を入れてしまうと、文章が長くなる可能性もある。
- ・「選択と集中」なども、理念としてはよく分かるが、ここに入れ込むのはなかなか難しいと思うが、大橋委員いかがか。

(大橋委員)

- ・できるだけ市民目線を意識していただきたいというところで、最終意見としたい。

(田巻委員長)

- ・今のご意見を反映させるような形でもう少し工夫していただきたい。

(渡邊委員)

- ・今の用語の定義に関連して、「アセットマネジメントの取り組みは早急な実施が必要である」という 1 文があるが、この 1 行だけでは、読んでも恐らく分からないと思う。
- ・この改革実施項目に「将来的ニーズに合った効率的な資産運用がアセットマネジメントの実施」と記載があるが、そのくらいの補足というか、書き方をしてもらわないと、何か分からないと思う。

(田巻委員長)

- ・この議論の中では分かりやすいかと思うが、いきなり読んでも分かりにくいと思うが、どうか。

(佐野行政経営課長)

- ・分かりにくい言葉については、もう 1 回点検したい。
- ・先程触れた、PDCA についても、分かる人は分かるし、分からない人は分からないと思う。

(渡邊委員)

- ・PDCA 自体、説明しても分からないと思う。

(佐野行政経営課長)

- ・そういう補足をしたい。

(渡邊委員)

- ・Plan、Do、Check、Action、くらいは書いた方がいいと思う。

(田巻委員長)

- ・言葉は、できるだけ丁寧にお願いしたい。
- ・他に、この辺りでよろしいか。

(鷺見委員)

・そもそも「大きな区役所、小さな市役所」が、大変分かりにくいと思うが、先日、大都市制度の議論が中央であって、政令市が大きくなっていくので、市民の声が行政に届いていかないということがあって、こういう発想がきているのではないかと推測する。

・それをどういう形でやるべきかとなると、どこにも答えはないので、こういう表現で、「皆さんの身近なところに行政はある」ということで理念を掲げていると思うが、それが行き過ぎると、コスト高になってしまう懸念があるので、どういう風に区役所に権限をおろしていくのが良いのかということも含めて、新潟市が先んじて議論していくのができれば良いのではと思う。

・そもそも非常に分かりにくい概念で、皆さんの議論が収束していかないのかと思った。

・市のもともとの考え方を、(注)か何かに入れておくのが良いと思う。

・これって何なのかというのは、それぞれ人によって捉え方が変わってしまうのではないかと、曖昧と言われれば非常に曖昧だと思う。

(田巻委員長)

・事務局から説明もあったが、このところは、役割等、もう1回整理して、どこまで分かりやすくなるかは難しいと思うが、少なくとも、一般の市民の方が見て、分かりやすくしてほしい。

・この表現は、難しいと思う。

(大橋委員)

・こだわって申し訳ないが、政令市になって5年経過し、総括が少し弱いのではないかと感じる。

・政令市といっても、もともと戦前から大都市だった東京、大阪、横浜、名古屋と、同じ政令市で1つにくるんでいるところも限界があるし、8つの区に分けたこと自体がどうなのか。

・あるいは、旧市町村、旧基礎自治体との関係がどうなっているか、そういうことが非常に曖昧、皆意見が違うから、感覚が違うから、こういうことになってきていると思う。

・この評価委員会でこれを議論することが馴染むかどうかがあると思うが、現にこういう方針で、執行部が運営している、行政運営がなされているので、この点について、リスクをきちんと言った方が良い。こういう意味で言っている。

(田巻委員長)

・これは、住民サイドがどう考えるか。

・サービスが今までと比べてどうなったのか、コストの面はいろいろあると思うし、逆に、住民側のサービス、受ける側が、これによってどう変わったのか、これがよく分からないと、本当に良かったかどうか、最終的な総括もできないのではないかと。

・次は10ページの「次の行政改革プランの策定」について、ここでは、「基本的な考え方」、「重点改革項目の取組項目の設定の際に留意すべき事項」ということで、整理していただいている。

・委員の皆様のご認識について、ご意見や、追加して記載すべき事項など、お聞きしていく。



【次の行政改革プランの策定にあたって】

(渡邊委員)

- ・書き方の部分だけ言いたい。
- ・説明の時点で話もあったが、PDCAのCAの部分の説明や、10ページの「魂を入れて...」のような表現は他とのバランスを考えてどうなのか、検討していただきたい。

(田巻委員長)

- ・それでは、鷺見委員。

(鷺見委員)

- ・10ページ目の1つ目と2つ目について言いたい。
- ・1つ目の最後、「...道筋をつける必要がある」は「見直しをしていく必要がある」くらいでよいのではないか。
- ・2つ目の最初、「行財政改革を一層推進し...」が浮いている感じがする。ここで大事なところは、人口減少で限られた財源のなかで、公共投資を集中的に行っていく必要がある。
- ・一方、郊外化していることと集中ということが、非常にバランスが取れていないので一貫性を出していくということだと思うので、そういう点に力点が置かれているので、行革の推進ということは別の話として抜いても良いのではないかと思う。
- ・最後に13ページで、以前の私の意見かと思うが、PPPという言葉を使ってしまっているが、よく考えれば「新しい公共」という概念のなかに入ってくるもので、よく整理していただければと思う。
- ・すぐ上の「新しい公共」というのは、外部評価の実施がメインとなっており、それと共に公共サービスの提供方法というのがいろんなバリエーションで存在しているので、新潟市でもいろんな検討をしていただくということで、新潟市民の税金に対するサービスの価値を最大化するようなサービス提供のあり方は考えられていいはずなので、そういう手法の検討と共に外部評価と一つにまとめていただければ良いのでは思う。したがって、PPPは取っても良いと個人的に思う。

(田巻委員長)

- ・では、佐野委員。

(佐野委員)

- ・10ページ一番下の「魂を入れていく...」は書き直した方がいい。
- ・先程から、区の役割・市の役割という話が出ているので、次の策定にあたってということも盛り込む必要があるというのを、13ページの③辺りに1文入れても良いのでは思う。

(田巻委員長)

- ・では、大橋委員。

(大橋委員)

- ・特にない。

(田巻委員長)

- ・それでは、今のところで事務局から何かあるか。

(佐野行政経営課長)

- ・今ほどの委員の方々の意見についてお答えする。
- ・まず、驚見委員の PPP のお話はおっしゃるとおり、PPP は「新しい公共」の一部と捉えられるので、まとめられるようにしたいと思う。
- ・また、先程から話のある「魂を入れていく…」の部分については、他の記述の書きぶり合うよう「それぞれの仕組みの改善を進めながら運用・取組みを徹底していく」という表現に変えさせていただく。
- ・区役所と市役所の役割のところは、今も取組項目の中にはそれに関係するものがあるが、これも改めて今後の行革プランを考えていく上では重要な視点だと思うので、この中に入れたいと思う。

(田巻委員長)

- ・今の事務局の回答でどうか。
- ・「魂を入れていく…」の部分は、要するに、質的な強化・向上と思うがそれだけではなく、仕組・機能というものを十分発揮していただきたいということだと思う。
- ・徹底というのは機能を発揮して、「具体的な成果に繋げていく」ということではないのかと思う。
- ・「新しい公共」については、6 の (1) ①にも (2) ③にも出ており、基本的な考え方で、ある程度「新しい公共」とはこういうものだと思っ、PPP など表現の仕方はあると思うが、具体的にどういう形でやるのか、今後の取組みとして考えられるとするとまとまるのではないか。
- ・委員の皆さんどうですか。

(驚見委員)

- ・そもそも重点改革項目が「新しい公共」というタイトルをつかっているの、いろいろな形、指定管理や民間委託を進められていると思うが、根本的に行政の役割を見直していく必要がある。
- ・民間と行政の役割を見直していかないと、歳出を一定としても、今後税収が減っていくと、行き詰ってしまうと思う。
- ・今よりもさらに進めた形の「新しい公共」、行政として何をすべきか、民間との線引きをしていかないと、どの自治体も持たないだろうと思っているので、そういう点を新たな取組項目というところで、強調していただくと良いのではと思う。
- ・そうしないと、新しいという意味ではなくなってしまうので、その視点も入れていただければと思う。

(田巻委員長)

- ・今の点、事務局いかがか。

(佐野行政経営課長)

- ・田巻委員長と驚見委員の意見については、そのように書き方を変えたいと思う。

(渡邊委員)

- ・今の件に関して、検討事項のポチの 4 にある新しい公共の「外部評価の実施」というのは、今驚見委員がおっしゃったように PPP、行政サービスを官民でパートナーシップを組んでいくということが、すでに始まっていて、進んでいるが、その進んだ次の段階として、新しい公共の中で、民間と連携したものに対して、その質を問うべき時にきている。

- ・外部評価を実施し、お互いの質の向上を図っていくべきなので、書き方の順位としては、PPP型のそういうものが上で、評価は2番目に書いていただく。
- ・今検討してほしいという話が出てきたが、考え方としては、そういうことになるかと思うので、その辺をまとめて書いてほしい。
- ・考えられる事項というのは、事項だから、「検討」や「整備」と書かれているのか。こういう書き方で書くということか。

(佐野行政経営課長)

- ・ルールはないが、標題が事項なので、体言止めにした。

(田巻委員長)

- ・今、順番についても、流れの中でそういう方がふさわしいということなので、お願いしたい。

(佐野行政経営課長)

- ・順番については、今程のご意見と先程鷲見委員がおっしゃったことを組み合わせて書き直したい。

(田巻委員長)

- ・他によろしいか。
- ・分かりにくいところがある。13ページの③の2つ目のポチの「コスト、費用対効果の視点」と分けたが、費用対効果はコストも含めていると考えるので、これは要らないと思うし、「事業の最終形を意識した、事業の組み立ての仕組みの整備」は分かりにくい。
- ・議論の中で、前に出てきたと思うが、どういうことを意識しているのか。

(佐野行政経営課長)

- ・これは、基本的に事業を始める時は、きちんと目的を立て、組み立てをして始めるが、中には、成果としてどこまでいった時に事業が終了になるのかがはっきりしていないものがある。
- ・そういう事業の組み立てをしないと、スクラップアンドビルドがしにくくなるので、事業を始める時には、きちんと目標設定をして、どこまでいけばその事業の役割が終わるのかを予め想定することが必要だろうという趣旨で、こういう意見が出てきたものだと思う。

(田巻委員長)

- ・そういうことなら、少し意味を分かりやすくお願いしたい。

(渡邊委員)

- ・この13ページの③の「今後新たな取組項目として考えられる事項」のところの書きぶりが、方針等、1~2行で体言止めで書かれているので、とても分かりにくいと思う。
- ・もう少し説明を付けた形で文章として書いていただいても問題はないのではないかなと思うが、いかがか。

(田巻委員長)

- ・事務局いかがか。

(佐野行政経営課長)

・皆様のご意見がそういうことであれば、もう少し補足をして分かるような形で文章化したい。

(渡邊委員)

・少し分かりにくい、伝わらないのではないかと思いますので、1文補足を入れる等検討してほしい。

(佐野行政経営課長)

・もう少し分かりやすく説明を加えた上で、書き直したいと思う。

(田巻委員長)

・皆さん、他に何かないか。

(鷺見委員)

・離れてしまうが、13ページの下から2つ目のところで、先程お話をさせていただいた外部評価のところに絡むが、「経営革新度など外部評価結果について、それが何に貢献しているか」ではなくて、「何がそういうのに貢献しているか」を検証して、活かしてくださいという書き方にした方が良い。

・「何に」を前に出していただいた方が良い。

(田巻委員長)

・他にどうか。

・それでは、全般に渡って、内容・表現、その辺いかがか。

(大橋委員)

・どう書けばということではないが、雇用の創出等と関係があると思うが、「新しい公共」という概念が出て、それは、急激な人口減少社会かつ少子高齢化ということがあって出ている新しい形の自治体運営の手法となっている。もう1つは、主に地域の経済だが、文化等もそうだが、急激にグローバル化している。国だけでなく新潟市そのものが、ある意味急激なグローバル化の波にのまれている。

・具体的には、国際線が運休になったりというような現象が出て、行政の運営とはいえ、どこかに触れていただきたい。

・インターネットで誰かが書いたものがロンドン経由で瞬時に日本に来る等、電子機器の情報の大量伝達が一瞬でできるので、それは避けて通れない。

・国の問題でなく、地域運営そのものもそうだし、したがって、自治体運営もそうなるのではないか。

・基礎自治体、新潟市、そういうことも、触れるところはないか、これはある意味、人を呼ぶ観光で交流人口を増やす等、書き込みをどこかにしてあったが、定住人口を増やすという意味の、それには雇用の場がある、そのキーワードは地域の国際化というか、経済のグローバル化の深化、そういうことで意識せざるをえない。そういうことは、私が見る限りないと思うが、議論をした気もするが、どうか。

・行政運営とは少し距離があるということか、私はやはりあると思う。

・問題提起というか、どこかに触れられるのであれば、書いていただきたい。

(田巻委員長)

・どういう風に取り上げるか、なかなか難しいところはあるが、確かに、少子高齢化

や人口問題、今後タウン地域の人口が減ってくる可能性がある中で、行政としてどういう風にグローバル化やIT（推進）化を取り入れて、それに対する対策をとっていくかということはあるかと思う。

- ・それは、どういう形に表現できるか難しいところだが。

（佐野行政経営課長）

・今のご趣旨については、10 ページ、「次の行政改革プランの策定にあたって」の全般的事項の 2 つ目に「拠点性を生かしたまちづくり」等の話が出ているし、時代の潮流等も書かれている。その中に、どういう形で入れ込めるかを検討させていただく。

（田巻委員長）

・このところは、大きな話になるので、対策となるとなかなか難しいが、問題提起するようになるかと思う。その辺、事務局で工夫していただく。

- ・他にないか。

・ないようなので、本日の各委員からのご意見を事務局から整理いただき、提言（案）の修正をお願いしたいと思う。

- ・修正した内容を、事務局から各委員に確認いただく。

・委員会はこれで最終回のため、皆さんには、それを修正したところでご意見を伺うということで、最終的に私の方で確認し、提言書とし新潟市に提出したいと思っているが、いかがか。

（委員より、了解）

- ・事務局で、そのように進めていただきたいと思う。
- ・それでは、第 4 回委員会についてこれで終了とする。
- ・事務局お願いします。

<閉会>

（浜田副市長）

・長時間ありがとうございました。まさに魂の入ったご議論をいただき感謝している。  
・6 月 7 日の第 1 回に始まり、本日 4 回まで、客観的かつ専門的なご議論をいただいた。

- ・委員長から話があったが、改めて提言としてまとめていただく。

・先程の話にもあったが、今、政令市が 5 年越しで、また並行してその 5 年を振り返りながら、検証の作業をしている。

- ・皆様からいただいた提言を、次のプラン作りに必ず参考にさせていただき、ぜひ新潟市が大きな改革の方向へ進めるよう努めたい。